務していた総合病院では、患者数も多

を、社会がどう受け入れていくかり

言えば、精神の病気があっても社会の

だったら…と置き換

そうですね。私も自分が患者

必要だと思います。

きるよう今後とも努力をは

続けた

V

く、ともいえますよね。私の専門領域で ことで一般の人の認知度が上がってい

医師・看護師の知識が深まる

中で普通に暮らしたいと望む人たち

大変な状況であったにもかかわら

ちが高まるようになりました。当時勤 設をつくらないといけないと思う気持

びたいという私を、同僚だけでなく病 ず、専門機関で高度生殖医療を深く学

この地域で生殖医療を専門にしたいと

最近は日々の診療に加え、将来

想像力も養わ

掛けています。 とを今でも心 えて診療するこ

なくてはいけま

常葉大 健康科学部 影山 セツ子 学部長

部長。看護師、臨床心理士。

常磐大人間科学研究科修士課程修了。日赤 北海道看護大看護学部教授、札幌医科大保

健医療学部教授・学科長等を経て、2013年

から常葉大健康科学部教授(精神看護学)・学

う医学生や医師の見学や研修も積

見るたびに、もどかしさを感じて…。

大変な思いをして治療を受ける姿を し診てもらっていました。患者さんが

んには、九州などの遠方の施設を紹介

の存在が受け入れられてきたように

教育と臨床が

ともに磨きあう

関係に

静岡にも高度の不妊治療ができる施

患者さんに選択肢を

した。みんな「静岡のため、患者さんの

压机

高い専門性と人間力 良質な医で静岡を支える

〈企画·制作/静岡新聞社営業局〉

進まなければ妊娠が望めない患者さ 対応をしていました。高度生殖医療に がほとんどなく、一般不妊治療までで 感じ取りました。しかし当時、静岡で 師の指導から不妊治療の意義深さを は高度の不妊治療を受けられる施設 最先端の治療 静岡の総合病院での勤務で、恩

ようになったきっかけをお聞かせくだ 俵先生が生殖医療に携わる の感謝の気持ちは忘れることがありま だったんだと思います。今でもその時 ために頑張ってきて」という気持ち

今では人材の育成も

やりがいがありますね。 ことができる医療者に 育ってもらいたい。教育は難しいけれど 人一人大切に診る

自ら考え

ちを理解し、一 者さんの気持 けではなく、患 す。技術の習得だ 極的に受け入れていま

常葉で学ぶ強みとは

しずつ深まることで、専門病院として

無事な出産のために当院から送り

妊娠を望む患者さんを受け入

-地域の医療機関との関係が少

地域で活躍する専門職や病気や障害 ション能力を育むゼミ形式の授業や で人々の健康生活に貢献できる人材と は4年間を看護師教育に特化し、総合 の人々を対象とする仕事であり、人間 ら死に至るまで、あらゆる健康レベル り出します。看護とは、人間の誕生か 年に開設され、来春、初の卒業生を送 して、リーダーシップやコミュニケー 実させました。また、住み慣れた地域 大学の利点を生かして教養教育を充 理解のできる人材が必要です。常葉で 影山 常葉大の看護学科は2013

貢献していただけることと期待して たちですから、将来、静岡での医療に での4年間でたたき込まれてくる方 活躍できるスキルと知識を常葉大学 看護師として臨床現場に送り出して と実践を培ってきた看護学生さんを ても大変ありがたいことです。地域で くれることは、臨床に携わる我々とし 4年という時間をかけて知識

言うまでもなく医療は命に関

痛みが受け止められるまでには時間が ほしい。さまざまな経験を通して人の 看護の基本があるということを知って して自分自身を活用すること、そこに のありようも含めて看護技術の道具と 貴重な経験です。学生たちには自分の も、その後の困難を乗り越えるための 五感を使って観察し、自分の思いや心 くつかの厳しい局面に遭遇したとして 4年間の学生生活の中でい る医療者の育成と、不妊症 と思います。私も不妊治療分野に携わ た静岡で医療に従事していただきたい 中で役に立ちたい」という思 意味があるとはっきり言えます。「社会の 分のものになった時のやりが 最新の知見と高い技術を常に提供で 知っていただき、将来ぜひ生まれ育っ る環境が静岡にはあると 育を受けられ、最先端の医療 るかもしれません。でも、その職業が自 わる分野。患者さんの一生に影響を与え したら、ぜひ目指してほしいと思います。 大都市でなくても充実した教 患者さんに いうことを 療に携われ いは大きな いがあると

のあるゲストスピーカーの講話、フィー クも取り入れています。 と考えています。

医療分野を志す人へ とって大変ありがたいことと がその経験を生かし、静岡 域での人材育成に関わってる くださることは、これからの

互いに向上していくことが されています。臨床と教育が チーム連携は教育上も重視

罐が期待される多くの看護師を育てて 影山先生のようにいろいろな地 の地元で活 こられた方 地域医療に 求められま が協力して

けでなく、チームとしての医療が大切 師、培養士、事務系職員などがあらゆ 野においても一人一人の経験と知識だ るよう心掛けています。不ら る角度から患者さんをサポー ミッド型の体制ではなく、 師のサポートだけではなく 、ね。当施設は医師を頂点 看護師に求められる る役割は医 、なっていま 吐治療の分 医師、看護 としたピラ トでき 手術は患者さんの緊張や 不安が大きいはず。 看護師の観察や声掛けが 大切だと感じました

動く看護師 俵IVFクリニック 俵 史子 院長

浜松医科大卒。愛知県竹内病院トヨタ不妊セ ンター所長を経て、静岡市で初の不妊治療 専門施設「俵史子IVFクリニック」を開業。 2012年に医療法人社団化し俵IVFクリニッ クに改名。15年に駿河区泉町に新築移転。

患者さんの悩みや治療について 看護師が親身になって一緒に考える態勢が よく分かりました。 福田純子診療部長がレクチャ

俵IVFクリニックで 常葉大健康科学部看護学科 3年生が見学・実習

常葉大健康科学部看護学科1期生の3人が 静岡の不妊治療の最前線である俵IVFクリニックを見学。 安心・安全な治療やプライバシーに配慮した施設、ケアの心構えを学んだ。

伊藤 彩乃 さん

採血室・ホルモン検査室

電子カルテ導入で診察の待ち時間を短縮 電子化された診察データの振り返りにより 診察の質の向上とスタッフ育成の一助に

隣接するホルモン検査室で すぐ検査が可能

診察室

徹底した整理整頓 患者さんだけでなく スタッフの緊張もほぐす アロマの香りが

吉川 紗英 さん

卵子も精子も命。 ダブルチェックや厳重な保管体制から 命を預かる重大さが伝わりました。



IVFN-L

採卵や移植を行う



www.tawara-ivf.ip

ラボ

顕微授精や受精卵の培養を行う 温度・湿度・清浄度が管理された空間

鈴木 佐和 さん